

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名(注1)	No.	自治体提示の地域課題名 地域の魅力発見・発掘及び地域課題解決が アクティビティとなる新しい観光体験	自治体名 多摩市
チームがつけたアイデア名(公開)(注2)	体験型アクティビティいちご狩り「多摩の甘い未来」		

(注1) 地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名(公開)	TRI'IZE(トライイズ)		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 ドロップダウン選択→		2.学生
チームメンバー数(公開)	4 名		
代表者(公開)	中野太雅		
メンバー(公開)	會田航大、福田莉埜、廣瀬真音		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名([メンバー一覧ページ](#)を参照)、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について:
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 → OK

＜チームメンバー名簿:[メンバー一覧ページ](#)＞

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容(公開)

アイデアは、対象とする課題解決のために、どのような社会的活動(サービス)を行うのかを具体的に示してください。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

将来実現した場合に、**新規性があり、実践したくなり、魅力的でわくわくするようなアイデア**を求めます。その結果、**課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます**。**2 ページ以内**でご記入ください。

※応募チームとして**解決したい課題のポイント**を、以下にごく短く書いてください

＜解決したい課題のポイント＞

- ・地域の魅力発掘
- ・地域住民への還元

※以上の課題解決のために『**何**』をする**アイデア**か、それを『**だれ**』が『**だれ**』に対して『**いつ**』『**どこで**』『**どのように**』**行う**のか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

（参考）よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感（使う人の立場になってみる）が大切です。

提案するアイデアの概要

＜抱えている課題＞

多摩市では、ふるさと納税による住民税の流出が深刻で、その額は現在 6.4 億円に達している。制度の仕組み上、寄付が行われることで本来地元自治体に納められるはずの税金が他の自治体に移るためだ。この流出額は毎年約 1 億円ずつ増加しており、来年にはさらに大きな金額が失われることが強く懸念されている。

＜多摩市ふるさと納税のニーズ＞

私たちが独自に実施した 178 人へのアンケートでは、「多摩市の返礼品としてアウトドアアクティビティと食べ物のどちらがよかったら嬉しいですか」という質問に対し、約 7 割の人が「食べ物」と回答し、残りの 3 割の人が「アウトドアアクティビティ」と答えた。（図 1）この結果から、ふるさと納税の返礼品として、食品に対する需要が非常に高いことがわかる。一方で、体験型のアクティビティにも一定の需要があり、多摩市の返礼品としてアクティビティの選択肢が求められていることも読み取れる。つまり、返礼品の選択肢としては、食べ物を中心にしたプランが主流である一方で、体験型アクティビティの提供も一定の魅力を持つことが確認できた。

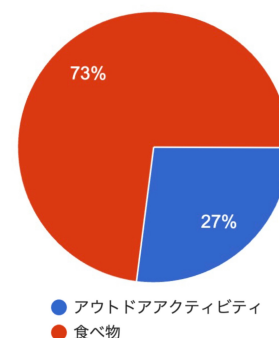


図 1

＜都心に近い田舎だからこそできること＞

多摩市は、都心部に近く、電車一本で容易に都心へアクセスできる利便性を持つ。

一方で、山や動物など豊かな自然が広がり、使われていない土地も多く存在する。このような特徴を踏まえ、多摩市は「田舎」ともいえるが、単なる田舎ではなく、都心に近いからこそ実現できる特別な魅力を秘めた地域である。この特徴を活かし、都心では味わえない「多摩市ならではの」返礼品を作り出すことができないかと考えた。議論の中で、メンバーの一人が「いちご狩り」に関する体験談を共有した。「いちご狩り」に行きたいと思い、家族で東京都内の施設をインターネットで検索したところ、都心や東京都内で「いちご狩り」ができる場所はわずか数件しか見つからなかった。そのほとんどが車で長時間の移動を要する場所であり、「手軽に行ける場所がない」という理由から結局断念したという。この経験を通じ、「東京都内で簡単に「いちご狩り」を体験できる場所があれば、多くの人が興味を持つのではないかと感じたという。

＜食べ物×アクティビティの返礼品＞

そこで、ふるさと納税の流出額を減らすための新しい返礼品として「いちご狩り」を提案する。しかし、通常の「いちご狩り」では他の地域との差別化が難しく、返礼品としての独自性や魅力を十分に引き出すことはできない。そこで私たちは、ふるさと納税で集まった資金とクラウドファンディングによって調達した資金を活用し、従来のいちご狩りを発展させた体験型アクティビティのプラン「多摩の甘い未来」を提案する。この新しい「多摩の甘い未来」では、単に収穫を楽しむだけでなく、納税者が自ら苗を植え、その成長を見守り、最終的に自分たちで収穫を行うという一連のプロセスを体験することができる。このプランは、多摩市の自然や余った土地といった地域資源を活用するだけでなく、参加者自身が作物を育てる喜びや達成感を得られる点に大きな特徴がある。また、長期的に地域と関わりを持つことができる仕組みであり、多摩市への愛着や興味を深めるきっかけにもなる。さらに、このような体験型返礼品は、多摩市を訪れる新しいきっかけを生み出し、地域の活性化や観光資源の開発にも寄与する可能性が高い。単に「食べ物」や「アクティビティ」を提供するだけでなく、自然や地域資源を掛け合わせたプランを返礼品として打ち出すことは、多摩市の持つ潜在的な魅力を最大限に引き出し、新しい価値を創出する試みである。この提案は、多摩市が他の地域との差別

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

化を図り、ふるさと納税の返礼品としての魅力を高めると同時に、多摩市の豊かな自然や土地の可能性を活かした地域活性化のモデルとなる可能性を秘めている。

「多摩の甘い未来」の仕組み・解決されること

＜市民と納税者が共に参加できる＞

私たちが提案する「多摩の甘い未来」という体験型アクティビティの返礼品は、納税者が参加できるだけでなく、多摩市民も参加できることが重要である。納税者は、苗を植えることと、いちごの収穫という2つの主なアクティビティに参加する。一方で、市民はその間に行われる水やりや苗の管理などの作業に、ボランティアとして主体的に取り組むことができる。そして、最終的には納税者と市民と一緒に「多摩市産のいちご」を収穫し、その場で食べるという体験を共有する。このような活動を通じて、市民と納税者が共に参加し、市外からも多くの人を引き寄せることができると考える。

＜「多摩の甘い未来」の仕組み＞

プロジェクトは、納税者がポット苗からいちごを育てる体験を通じて、地域とのつながりを深めることを目的としている。プロジェクトは、10月から11月ごろに始まり、その時期に納税者がオンライン等で事前に集まり、会議を重ねてから現地で苗を植える。この段階では、納税者が自分たちで苗を植え、今後の育成計画について確認を行う。納税者は体験の質を確保するため10組程度に限定され、料金はふるさと納税としての寄付額で約70,000円を予定している。次に、市民のボランティアが水やりや苗の管理を担当する。ボランティアは当番制で、納税者の体験のサポートを行い、育成期間中に積極的に関わることができる。最終的に、翌年の5月ごろに収穫の時期を迎え、納税者と市民と一緒に「多摩市産のいちご」を収穫し、その場で食べるという体験を共有する。この収穫イベントは、納税者と市民が共に楽しむ重要な一日であり、地域活性化の一助となる。このプロジェクトの実施場所は、多摩市公園緑地課が主催した「農業公園づくり」の一環として整備された畑である。この畑は、多摩市と協力し本校の生徒たちも一部使用しており、地域との密なつながりを感じることができる。納税者や市民は、この特別な場所でいちごを育て、収穫することで、多摩市の魅力をより深く体験することができる。このように、納税者と市民が共同で参加することで、多摩市の地域社会が一体となり、ふるさと納税を通じた新しい形の地域づくりが進んでいく。

＜解決されると考えられる事＞

① 住民税の流出の抑止

全国に例を見ない、「いちご狩り」を自分たちで苗を植えるところから収穫するまでの一連の体験型アクティビティを提供することにより、多摩市は注目を集めることができる。このユニークな体験は、参加者が単なる観光客ではなく、地域と深く関わりながら自らの手で農作物を育てるという貴重な経験を提供する。納税者がこのプロジェクトに参加し、いちごの成長過程に関わることで、多摩市に対する興味や魅力が自然と深まることが期待できる。

② 多摩市全体への還元

さらに、実際に体験した納税者が「多摩市の自然や地域に魅力を感じた」と思えば、次回からも持続的にお金を落としてくれる可能性が高く、これにより地域経済の活性化が促進され、住民税の流出を抑える効果が期待できる。

③ 都心で「いちご狩り」ができる

加えて、これまで「いちご狩り」を体験するためには、都心から遠く離れた農園まで足を運ばなければならず、手軽に楽しむことができなかった。しかし、この体験型アクティビティを多摩市で提供することによって、都心に住んでいる人々や都心から少し離れた場所に住む人々でも簡単にアクセスできるようになる。多摩市という場所で、誰でも気軽に「いちご狩り」を楽しめる環境が整うことで、都市部からの観光客やふるさと納税者を引き寄せることができ、地域に新たな交流の場が生まれる。このような取り組みは、単に多摩市を訪れるきっかけを提供するだけでなく、地域の農業や自然資源を再評価し、多摩市の魅力を広く伝えるチャンスをもたらす。結果的に、多摩市の地域活性化や観光振興、経済的な発展に寄与することが期待できる。

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ **2ページ以内**で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

ー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

＜参考：以下のように理由を書いていきます＞

※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）

理由 1: ふるさと納税による住民税流出が住民生活に影響しているため

右の図（図 2）は、多摩市の広報誌「2024 年 8 月 20 日号たま広報」から引用したものである。この図には、令和 6 年度にふるさと納税が原因で住民税 6.4 億円が市外に流出している状況が示されている。注目すべきは、この流出額が令和 2 年度以降、毎年増加傾向にあり、年間約 1 億円ずつ増加しているという事実である。この増加は、多摩市にとって重大な課題であり、放置すればさらに多くの住民税が市外へと流出する可能性が高い。

6 億円という金額は、一見大きな数字に感じられるが、その影響は具体的な例を挙げることでさらに明確になる。例えば、6 億円は乳幼児や就学児、高校生を対象とした医療費助成にかかる年間費用に匹敵する規模であり、これが失われることで、子どもを持つ家庭への負担が大幅に増加する可能性がある。医療費助成がなくなれば、家庭での医療費負担が増加し、経済的理由で必要な医療を受ける機会が制限される事態も考えられる。特に、成長期の子どもたちに必要な定期健診や治療が受けられなくなることで、健康面での影響が長期的に現れる恐れがある。また、この 6 億円は道路整備に必要な年間運営費用にも相当する規模である。道路整備は市民の生活の質や安全性を確保するために欠かせないインフラ整備であり、その予算が削減されれば、道路の老朽化が進行し、市民の移動や物流にも支障が生じる可能性がある。特に、通学路や幹線道路の安全性が低下することで、交通事故のリスクが高まる懸念もある。さらに、この住民税の流出が増加し続ける背景には、ふるさと納税の制度自体の構造的な課題があると言える。全国的に見ても、多くの自治体が魅力的な返礼品を提供することで寄附金を集め、地方経済を活性化させている。一方、多摩市は返礼品やそのプロモーションにおいて十分な魅力を発揮できていないため、他の自治体と比較して競争力を失っている可能性がある。この状況を改善し、住民税の流出を少しでも減少させるためには、地域の特性を生かした独自性のある返礼品を開発するだけでなく、その魅力を広く発信する仕組みづくりが必要である。特に、多摩市の自然や歴史、地理的な優位性を活用した体験型の返礼品は、都市部からのアクセスの良さを生かし、他自治体との差別化を図る上で重要な要素となり得る。こうした取り組みを通じて、多摩市は住民税流出の問題を解決するだけでなく、新たな地域の価値を創出し、持続可能な地域づくりを進めることができると考えられる。

理由 2: 多摩市のふるさと納税は認知度が低い

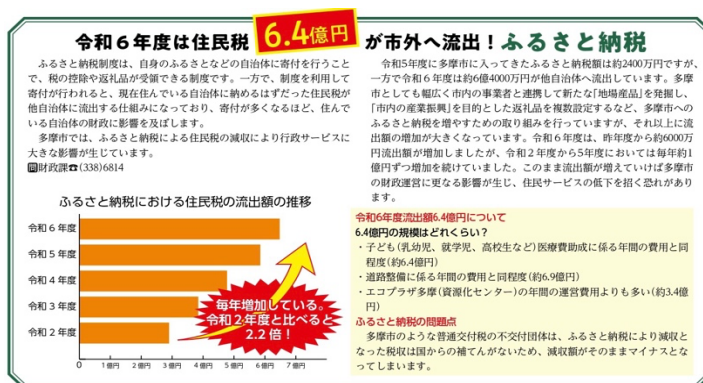


図 2 引用:

https://www.city.tama.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/015/687/20240820tama-P11.pdf

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

右の図（図 3）は、私たちが独自に実施した多摩市民を含む 178 人へのアンケート結果を示している。このアンケートでは、「多摩市がふるさと納税を実施していることを知っていますか？」という質問に対し、約 7 割以上の人が「知らない」と回答している。この結果は、多摩市民の間でふるさと納税自体の認知度が非常に低いことを明確に示している。多摩市がふるさと納税を実施していることを知らない市民が多い状況では、当然ながら、返礼品にどのようなものがあるかについても十分に知られていないことが推測される。返礼品の内容が市外の人々だけでなく、市民自身にも認知されていない状況は、多摩市がふるさと納税を活用して地域振興や経済活性化を図る上で大きな課題となる。返礼品が地域の特色を伝え、多摩市の魅力をアピールする役割を果たすためには、まずその存在自体が広く認知される必要がある。さらに、このような認知度の低さは、多摩市がふるさと納税を通じて得られる潜在的な寄附金額の減少にもつながっていると考えられる。他自治体が積極的に魅力的な返礼品を打ち出し、プロモーション活動を行っている中、多摩市は市内外の人々に情報を十分に届けられていない可能性がある。この現状を改善するには、返礼品の魅力を引き上げると同時に、広報活動を強化し、市内外で多摩市のふるさと納税に関する情報を積極的に発信していく必要がある。市民の認知度を高めることで、ふるさと納税制度への理解が深まり、市民自身が地域振興の一環として制度を活用する意識を持つことが期待される。

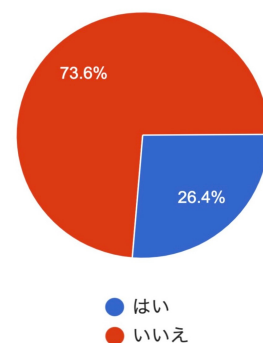


図 3

理由 3:「いちご狩り」は需要があり人気である

右の図（図 4）は、日本トレンドリサーチによる「いちご狩り」に関する調査から引用したものである。この図から、「実際に「いちご狩り」に行ったことがある人は 6 割以上いる」という結果が示されている。このことから、「いちご狩り」が多くの人々にとって身近であり、特にファミリー層やカップルに人気のあるアクティビティであることがわかる。また、「いちご狩り」は季節感や自然との触れ合いを楽しむ機会として、多くの人に支持されている点でも注目すべきである。さらに、都心からアクセスしやすい場所でのいちご狩りは、休日のレジャーとして需要が高いと言える。しかし、東京都内で気軽に「いちご狩り」を楽しめる施設は限られており、実際には多くの人が郊外や他県まで足を運んでいるのが現状である。このことから、多摩市が「いちご狩り」というアクティビティを返礼品として提供し、その魅力を広く発信すれば、都心からのアクセスが良いという地理的な強みを活かし、多くの人々の関心を集めることが可能であると考えられる。特に、多摩市が提案する体験型の返礼品では、いちごの収穫だけでなく、苗の植え付けや育成プロセスを体験できる点が差別化のポイントとなる。「いちご狩り」に加えて、栽培の過程を体験することで、一般的な「いちご狩り」以上の満足感を得られることが期待される。このような取り組みは、単なる観光以上に地域の魅力を深く感じてもらう機会となり、リピーターの増加や地域のファンづくりにもつながるだろう。多摩市が提供する新たな体験型返礼品は、多摩市外の人々にとって魅力的な選択肢となるだけでなく、多摩市の地域資源を効果的に活用し、住民税流出問題の解決や地域経済の活性化にも寄与する可能性がある。

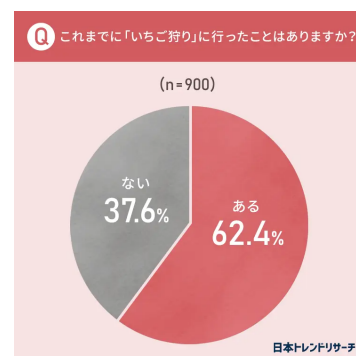


図 4

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

2. アイデアの説明（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大きな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、アイデア実現までの大きな流れについて、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大きな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1. 実現する主体

企画考案・運営主体：TRI'IZE（トライアイズ）

運営・予算管理等：多摩市役所など

2. 実現に必要な資源

＜ヒト＞

① ふるさと納税への納税者

実際に多摩市にふるさと納税を行い、「多摩の甘い未来」の返礼品を受け取る納税者は、このプロジェクトの主要な参加者である。彼らは納税を通じて地域を支援するだけでなく、苗の植え付けや収穫といった体験型アクティビティに参加することで、多摩市の魅力を実感することができる。こうした体験は、多摩市に対する愛着や興味を深める契機となるだけでなく、納税者自身が地域振興の一環を担う感覚を持つきっかけとなる。

② 多摩市民

多摩市民は、苗の成長期間中の水やりや管理といった日常的な作業にボランティアとして参加し、納税者が実際に訪れるまでの間、いちごの健全な育成を支える役割を果たす。これにより、市民自身も地域の農業やふるさと納税の取り組みに主体的に関わり、地域活性化の一員としての意識を高めることができる。また、市民がボランティア活動を通じて納税者と交流することで、地域に対する誇りを共有し、外部からの訪問者とのつながりを築く機会にもなる。

③ TRI'IZE（トライアイズ）

私たちは、この企画の進捗状況を適切に管理し、全体を円滑に進める役割を担う。具体的には、苗の植え付けから収穫までのスケジュールを確立し、多摩市民や納税者が参加しやすい環境を整える。また、日々の水やりや苗の管理について市民ボランティアと連携し、必要なサポートを提供する。さらに、納税者との定期的なコミュニケーションを通じて、彼らの意見や要望を反映しながら、参加者全員が満足できる体験を創出することを目指す。

④ 多摩市役所

この企画を実現するためには、多摩市の行政機関との緊密な連携が不可欠である。まず、多摩市長をはじめとする市の関係者に対し、本企画の目的や意義、地域活性化への貢献を丁寧にプレゼンテーションすることで理解と賛同を得る。そのうえで、公園緑地課が所有する畑を本企画の活動拠点として貸与していただくための協力を正式に依頼する。

＜モノ＞

前述した公園緑地課が所有する畑・いちごの栽培に使用するポット苗・栽培に必要な道具（例：水やり用のじょうろや土壌を整備するための基本的な農具）

＜カネ＞

ふるさと納税の寄付額・クラウドファンディングを実施

3. 実現プロセス

2. アイデアの説明（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

2025 年4月:プロジェクト始動

5月:多摩市長をはじめとする市の関係者に対しプレゼン

6月:具体的な企画案を作成・企画書を作成

7月:ふるさと納税のページ、クラウドファンディングに本企画を掲載開始

8月:納税者を集めるためにPR活動を我々が行う・苗や畑の準備

9月:ふるさと納税のページ、クラウドファンディング応募締め切り・納税者にオンライン説明会

10月:苗を納税者と植える

11月～4月:多摩市民ボランティアが当番制で水やり等管理・維持等を行う

2026 年5月:育ったいちごを収穫する